

## 目標達成計画

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに職員一同で次のステップへ向けて取り組む目標について話し合います。

目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

【目標達成計画】					
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	23 36 37	事業所の理念を軸に1人ひとりの利用者の思いを尊重しケアを行っているが、自己表現の難しい利用者や理解力の低下している利用者など個々の利用者の状況に応じて、より細やかな対応が必要と思われる。	利用者一人ひとりが、自分の思いや意向を表出し、有する能力を発揮して自分らしく暮らしていける。	①認知症や権利擁護についての勉強会を行い、職員の意識・能力を高める。 ②日常的に事例検討やロールプレイを実施し、職員同士で意見を出し合い共に考える機会を多く作る。	12ヶ月
2	33	利用者及びご家族から状況が重度化した場合も当グループホームで過ごしたいという希望がある。職員の能力や経験に多少の差がある現状において、職員の資質向上のための取り組み、またご家族や主治医との連携がさらに必要である。	ご家族や主治医の協力を得て、連携を行い利用者の状況に応じ意向に沿った柔軟な支援体制がとれる。	①重度化した場合の対応について、個別に早い段階から日常的に話し合いを行い、事業所の方針や対応能力を理解して頂く。 ②利用者の急変や事故発生時に備え、実践的な研修を定期的に行い、重度化に対応できる能力を高めていく。	12ヶ月
3	35	夜間の災害を含めた避難訓練を定期的に行い、マニュアルの見直しをしてきているが、訓練の都度多くの反省点が出ている現状である。ご家族から、緊急連絡網訓練や避難訓練に参加したいという要望も頂いている。	災害時、利用者が安全に避難できる対応を全職員が身につける。また、利用者、家族にも、緊急連絡や避難方法を経験し理解して頂く。	①訓練の反省点を都度改善につなげ、より実践的な形で行う。 ②災害時の避難方法について、利用者や家族と日常的に話し合う機会を持ち、緊急連絡網訓練や避難訓練に参加して頂く。	12ヶ月
4					ヶ月
5					ヶ月

注)項目の欄については、自己評価項目のNo.を記入して下さい。項目数が足りない場合は、行を挿入してください。